

2021年度まちづくりネットモニター第4回調査結果  
テーマ「各種ハザードマップについて」



近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化しており、降雨量の増大等に対応するため、国や自治体はハード整備の加速化・充実や治水計画の見直しを行っています。加えて、上流・下流や本川・支川の流域全体を俯瞰し、国と自治体、企業、住民等、あらゆる関係者が協働で取り組む「流域治水」の実効性を高める法的枠組み「流域治水関連法案」が本年4月末に成立しました。

本市では、水防法に基づく「洪水ハザードマップ」を令和2年4月に、土砂災害防止法に基づく「土砂災害ハザードマップ」を令和3年3月に改訂し、市民の皆さまに対し、印刷物の配布やウェブサイト等で周知を行っています。また、今後の地震災害に備えるため「液状化ハザードマップ」を令和3年3月に新たに作成し、ウェブサイトで周知を行っております。

市民の皆さまの各種ハザードマップに対する認知度を把握し、今後の取り組みに向けて参考とさせていただくため実施したアンケート結果をお知らせいたします。

(河川課)

調査概要

- 調査期間 令和3年7月1日(木)～7月10日(土) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性164名 女性 196名)
- 回答者数 336名 (男性156名 女性 180名)
- 回答率 93.3%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	3	6	14	28	36	14	44	11	156
女性	4	10	38	63	43	19	2	1	180
合計	7	16	52	91	79	33	46	12	336

《回答者地区別内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
旧市	2	4	22	37	32	18	17	5	137
富田	3	2	4	6	5	4	3	3	30
大槻	1	2	7	13	10	4	6	1	44
逢瀬	0	0	1	2	0	0	0	0	3
安積	0	2	6	8	10	2	10	3	41
三穂田	0	0	0	0	1	0	0	0	1
片平	1	2	0	2	2	1	0	0	8
喜久田	0	1	2	6	3	1	2	0	15
日和田	0	1	3	2	3	1	0	0	10
富久山	0	2	5	10	6	0	6	0	29
湖南	0	0	0	0	2	0	0	0	2
熱海	0	0	0	1	1	2	0	0	4
田村	0	0	2	1	2	0	2	0	7
西田	0	0	0	1	2	0	0	0	3
市外	0	0	0	2	0	0	0	0	2
合計	7	16	52	91	79	33	46	12	336

《自分自身の避難について》

- ・自分自身の避難場所について全体の77.4%が「知っている」と回答し、22.6%が「知らない」と回答。
- ・自分自身の避難ルートについて全体の68.5%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、31.5%が「決めていない」と回答。

《洪水ハザードマップについて》

- ・郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）について94.9%が「知っている」と回答し、5.1%が「知らない」と回答。
- ・洪水ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の69.8%が事前に「確認している」と回答し、30.2%は「確認していない」と回答。

《土砂災害ハザードマップについて》

- ・郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）について全体の56.8%が「知っている」と回答し、43.2%が「知らない」と回答。
- ・土砂災害ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の69.3%が事前に「確認している」と回答し、30.7%が「確認していない」と回答。

《液状化ハザードマップについて》

- ・郡山市液状化ハザードマップについて全体の22.0%が「知っている」と回答し、78.0%が「知らない」と回答。

《その他について》

- ・分散避難について全体の61.6%が「知っている」と回答し、38.4%が「知らない」と回答。
- ・車中避難（※1）場所の指定について全体の33.3%が「知っている」と回答し、66.7%が「知らない」と回答。
- ・垂直避難（※2）に特化した避難所について全体の17.0%が知っていると回答し、83.0%が「知らない」と回答。
- ・各種ハザードマップの今後の活用について、全体の17.6%が「既に活用している」、73.2%が「活用を考えている」、9.2%が「活用を考えていない」と回答。

（※1）自家用車で浸水する可能性がない高台や駐車場等に避難すること。

（※2）自宅・施設等の浸水しない上階へ移動すること。

**【考察】**

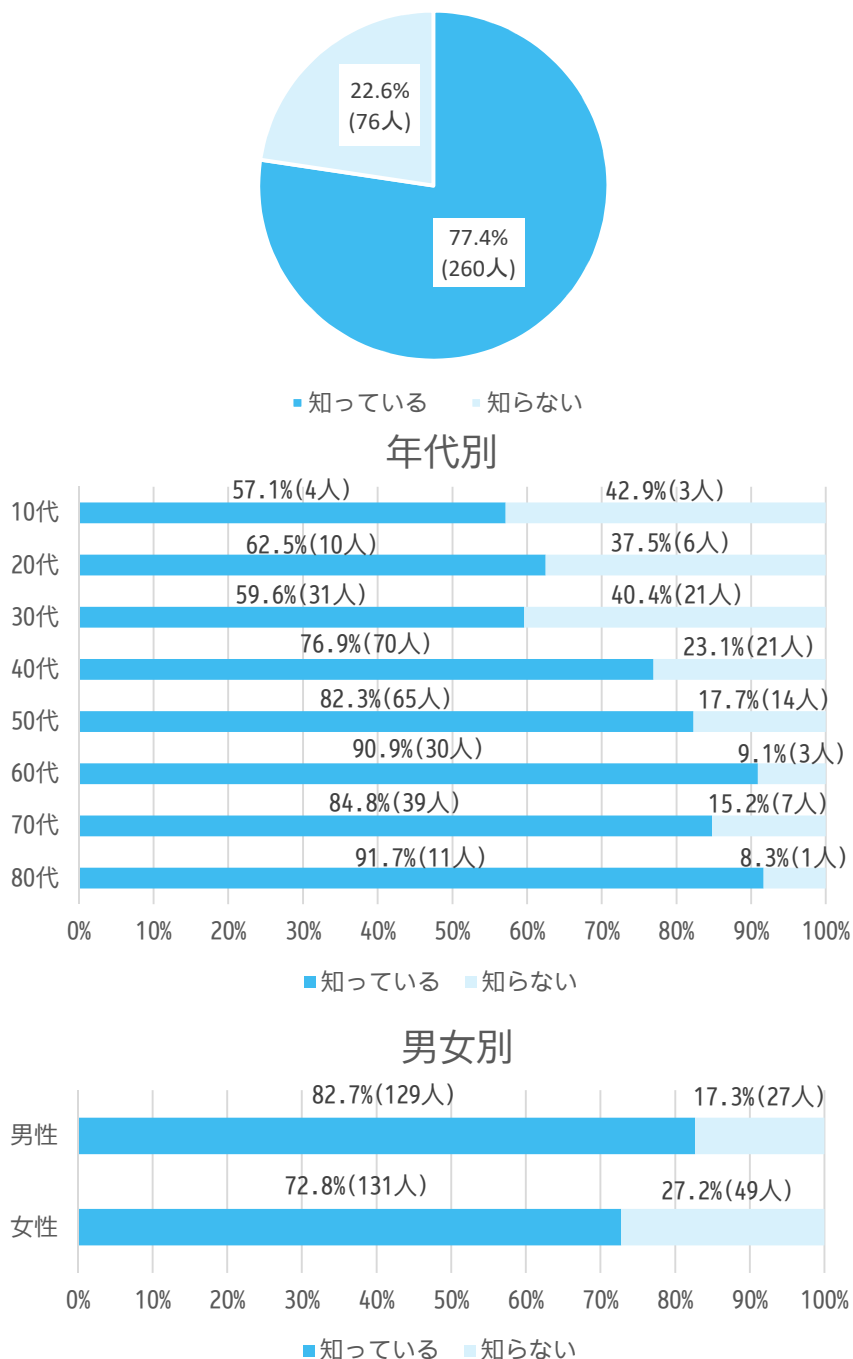
- ・自分自身の避難場所や避難ルートについて約7割が事前に決めており、災害時における避難への意識が高い。
- ・洪水ハザードマップの認知度は約95%と高いが、依然として10代の認知度が他の年代と比べて低いため、出前講座等を通じて周知・啓発していく必要がある。
- ・土砂災害ハザードマップ及び液状化ハザードマップの認知度は、洪水ハザードマップよりも低いので、引き続き周知・啓発をしていく必要がある。
- ・各種ハザードマップの今後の活用について、大多数の方が活用する考えでいる一方で、自宅の周りは安全などの理由から、活用を考えていないという意見もあった。必ずしも、自宅で被災するとは限らないので、引き続きハザードマップの啓発を行っていく必要がある。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

## 第1章 自分自身の避難について

問1 災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難場所をご存知ですか？  
（1つ選択）

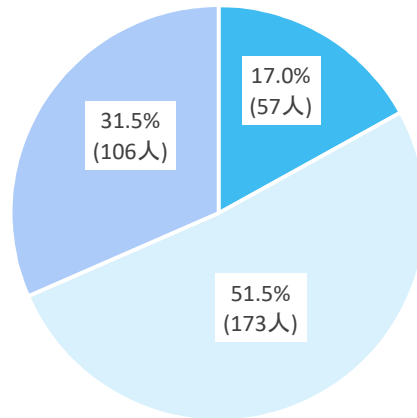
（回答者：336人）



災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難場所について、全体の77.4%が「知っている」と回答している。また、年代別においては、10代から30代は約6割、40代以降は7割以上の方が「知っている」と回答している年代に関係なく多くの方が、自分自身の避難場所について認識している。

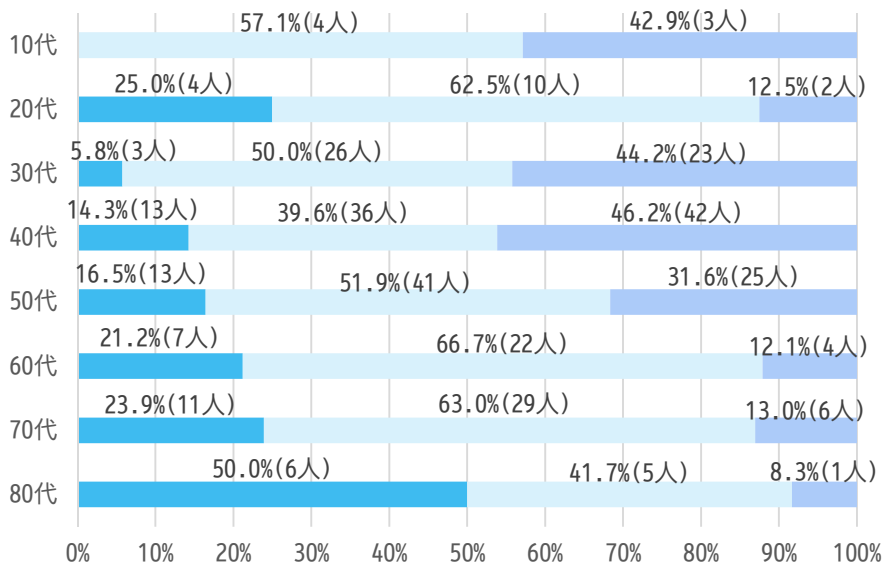
問2 災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難ルートを決めてありますか？  
（1つ選択）

（回答者：336人）



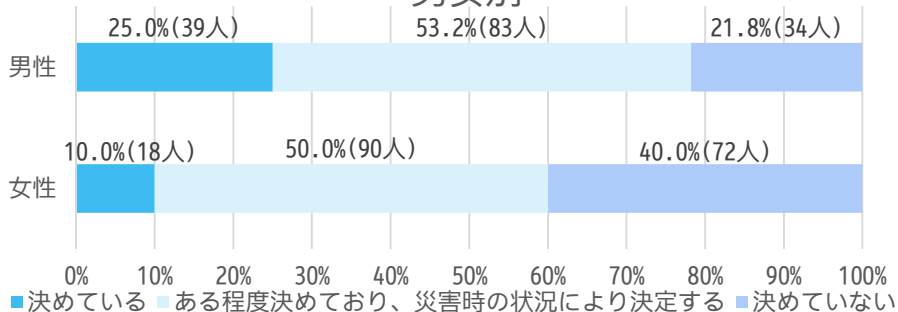
■ 決めている ■ ある程度決めており、災害時の状況により決定する ■ 決めていない

年代別



■ 決めている ■ ある程度決めており、災害時の状況により決定する ■ 決めていない

男女別



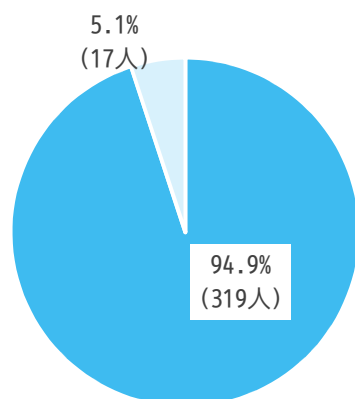
■ 決めている ■ ある程度決めており、災害時の状況により決定する ■ 決めていない

全体の17.0%が「決めている」、51.5%が「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、合わせて68.5%が何かしら避難ルートを決めている。男女別では、男性は78.2%、女性は60.0%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答しており、女性よりも男性の方が18.2ポイント高い。

## 第2章 洪水ハザードマップについて

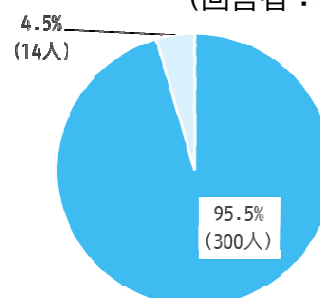
### 問3 郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：336人）



#### 【参考】 前回の回答結果

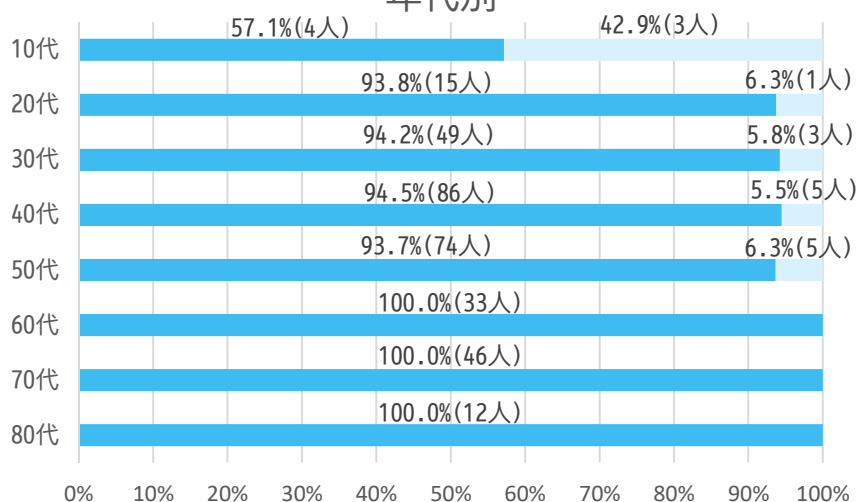
（回答者：314人）



■ 知っている ■ 知らない

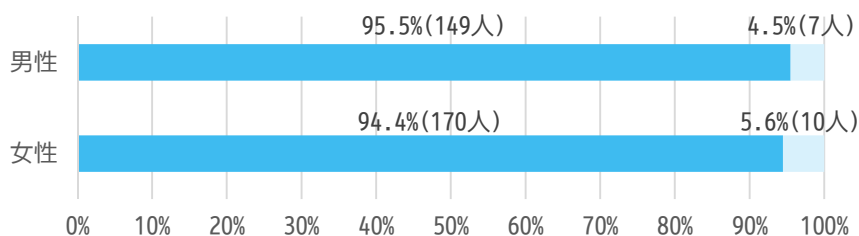
■ 知っている ■ 知らない

#### 年代別



■ 知っている ■ 知らない

#### 男女別



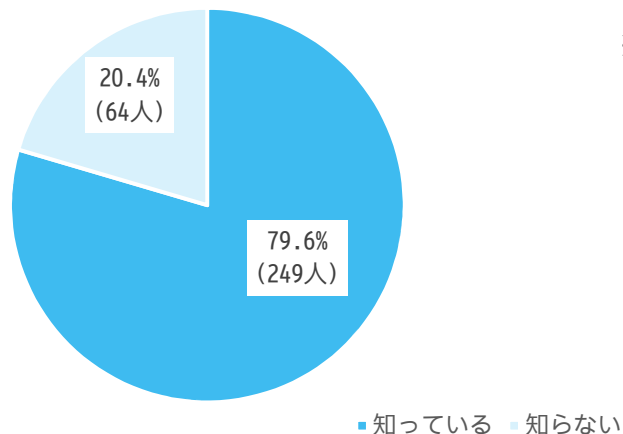
■ 知っている ■ 知らない

全体の94.9%が「知っている」と回答し、洪水ハザードマップの認知度は9割を超えている。年代別では60代から80代が100%と最も高く、20代から50代で9割を超えている。しかし、10代は、他の年代と比べて認知度が最も低く57.1%であった。男女別では、男性は95.5%、女性は94.4%であり、どちらも9割以上が「知っている」と回答している。

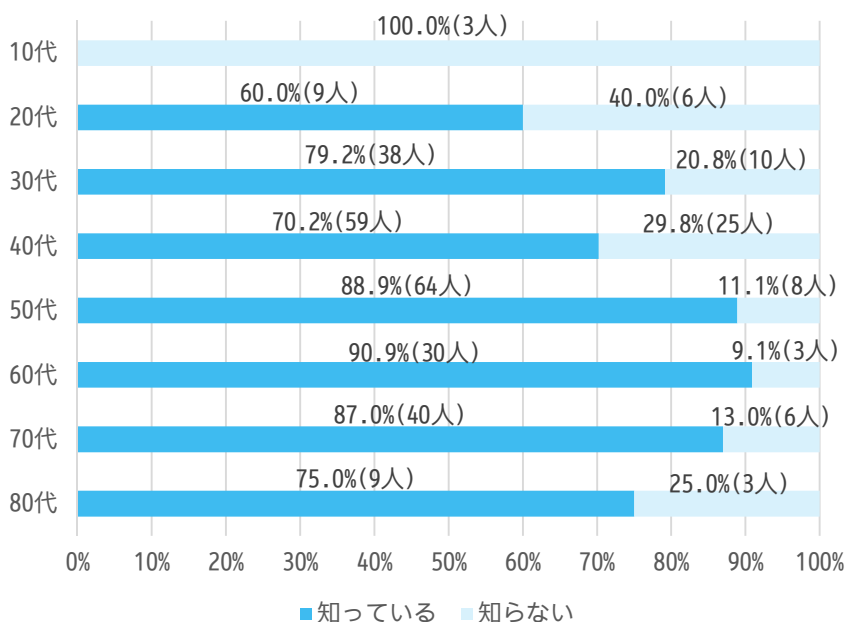
問4 問3で「知っている」を選択した方にお尋ねします。本市は、洪水ハザードマップを令和2年4月に改訂し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：313人）

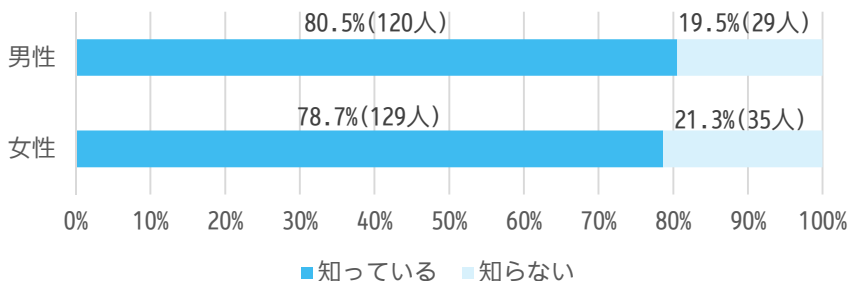
※6人無回答



### 年代別



### 男女別



全体の79.6%が洪水ハザードマップの改訂について「知っている」と回答している。年代別では、50代から70代において9割近くが「知っている」と回答している。10代では、「知っている」と回答したのが0%であり、洪水ハザードマップについては知っているが、改訂されたことについては「知らない」という結果であった。男女別では、「知っている」と回答した割合が男性は80.5%、女性は78.7%であり、ともに約8割が「知っている」と回答している。

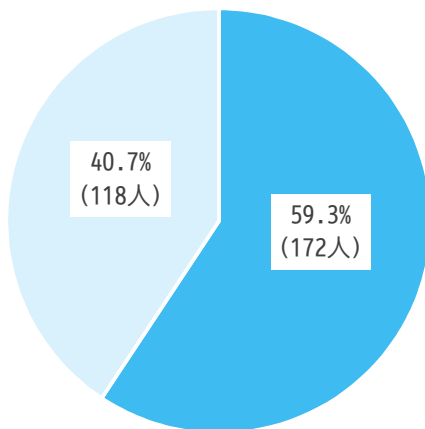
問5 問3で「知っている」を選択した方にお尋ねします。洪水ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：290人）

洪水ハザードマップURL [https://www.city.koriyama.lg.jp/bosai\\_bohan\\_safecommunity/bosai/7/23418.html](https://www.city.koriyama.lg.jp/bosai_bohan_safecommunity/bosai/7/23418.html)

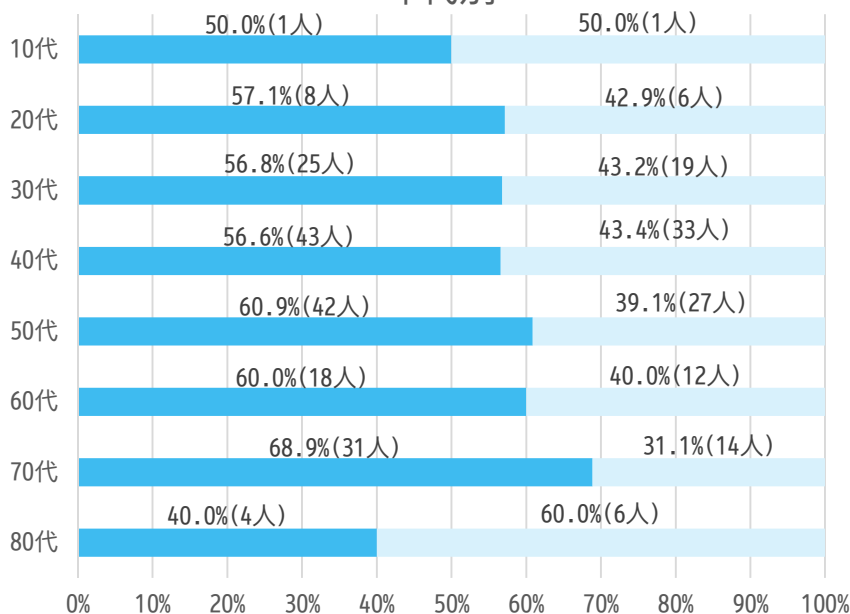


※29人無回答



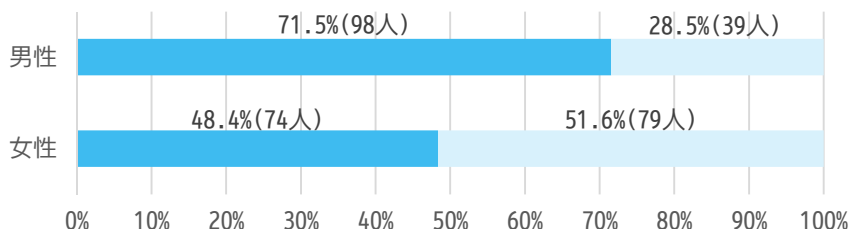
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

男女別



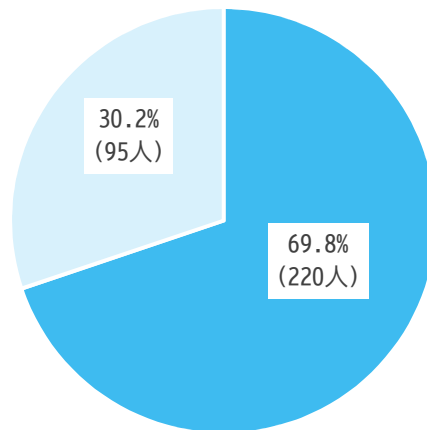
■ 知っている ■ 知らない

洪水ハザードマップのダウンロードについて、59.3%が「知っている」と回答している。年代別では10代から70代において、約半数が「知っている」と回答したのに対して、80代では40.0%と、他の年代よりも低い割合を示した。男女別では、男性は71.5%、女性は48.4%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が23.1ポイント高い。

問6 洪水ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の水害リスクについて事前に確認していますか？

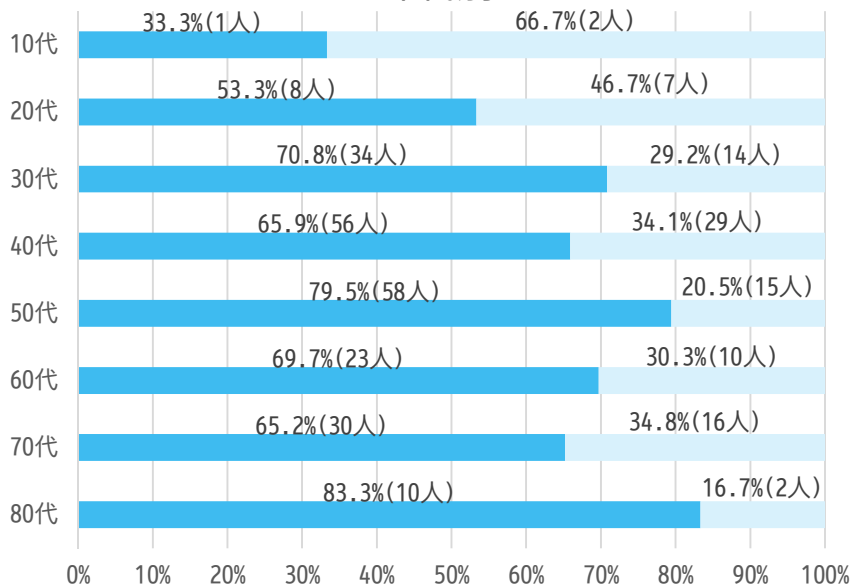
(回答者：315人)

※4人無回答



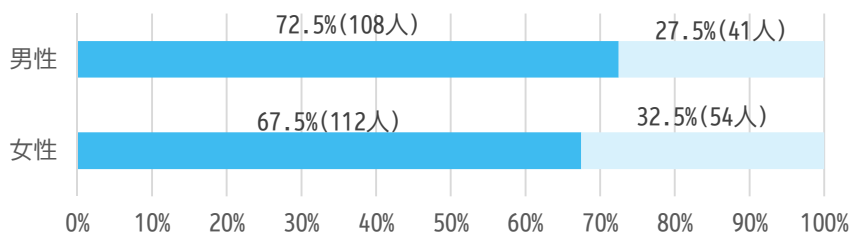
■ 確認している □ 確認していない

年代別



■ 確認している □ 確認していない

男女別



■ 確認している □ 確認していない

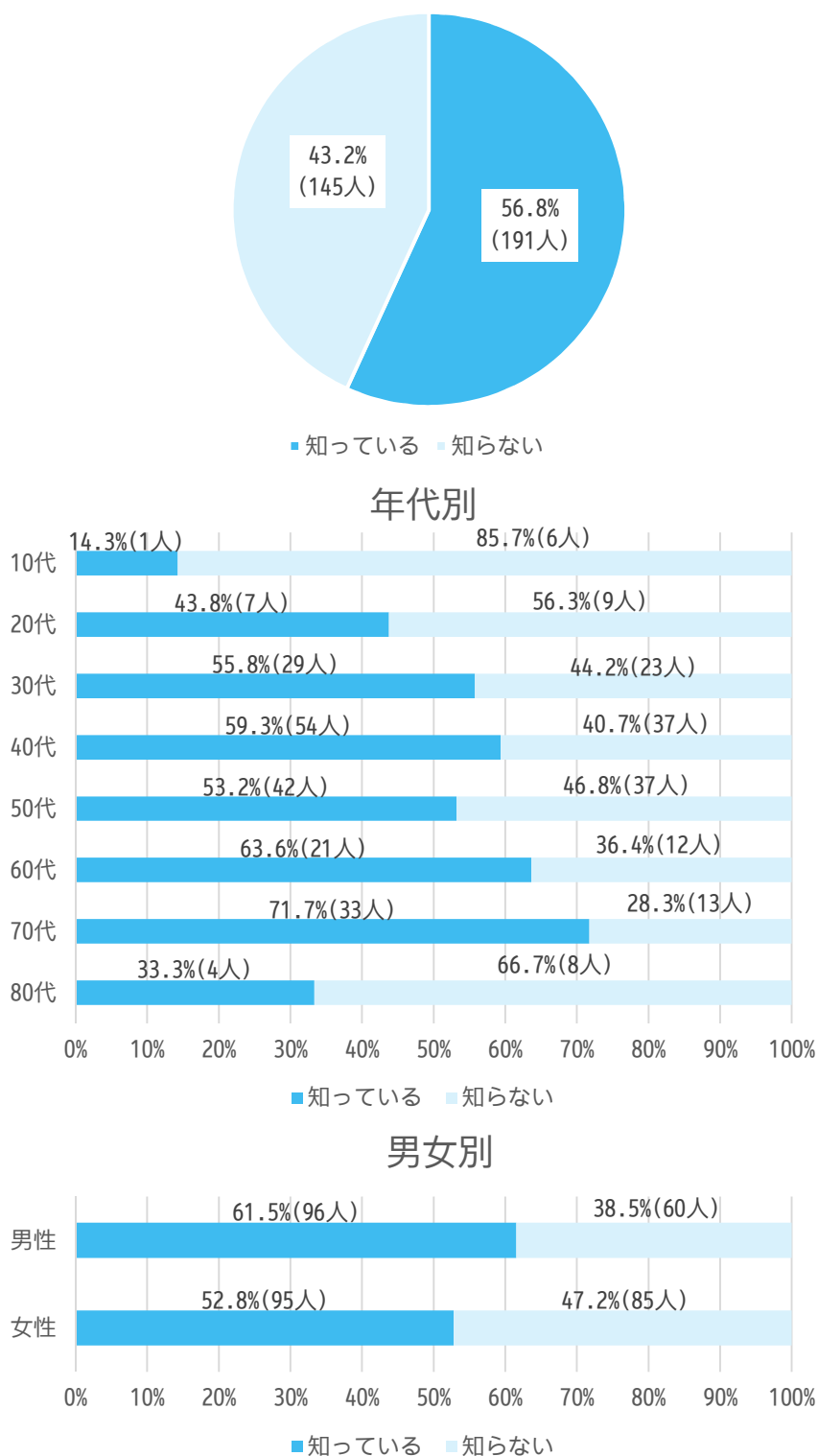
問3で「知っている」と回答した方の中、69.8%が水害リスクについて事前に「確認している」と回答している。年代別では、80代が83.3%、次いで50代が79.5%と割合が高い。一方で、10代では「確認している」割合が他の世代と比べて低い。男女別では、男性は72.5%、女性は67.5%であり、ともに約7割が「知っている」と回答している。



### 第3章 土砂災害ハザードマップについて

問7 郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）をご存知ですか？  
（1つ選択）

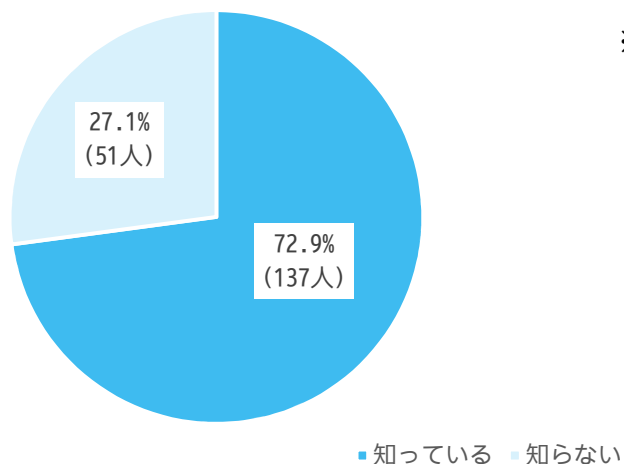
（回答者：336人）



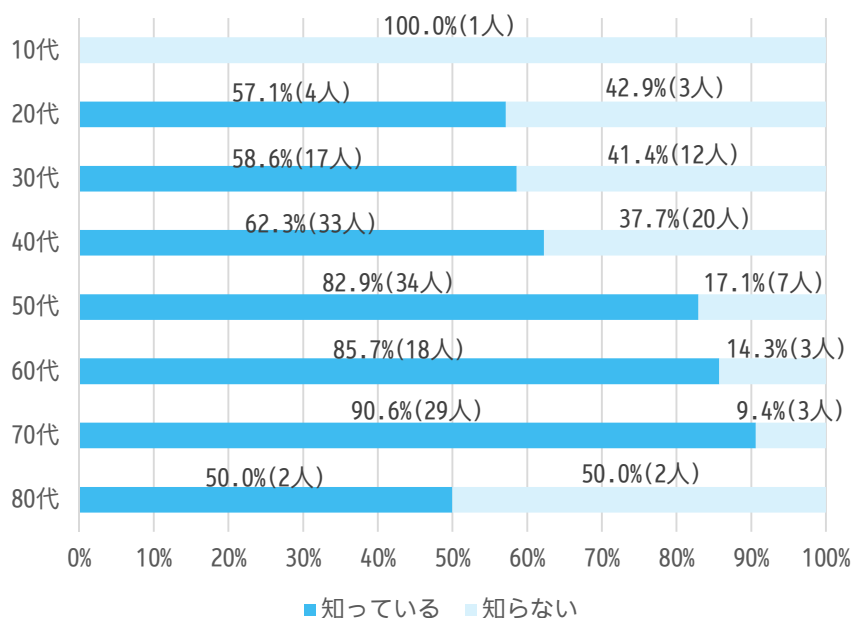
全体の56.8%が「知っている」と回答している。年代別では、10代と80代がそれぞれ14.3%、33.3%と、他の年代と比較すると低い割合を示した。男女別では、男性は61.5%、女性は52.8%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が8.7ポイント高い。

問8 問7で「知っている」を選択した方にお尋ねします。本市は、土砂災害ハザードマップを令和3年3月に改訂し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）（回答者：188人）

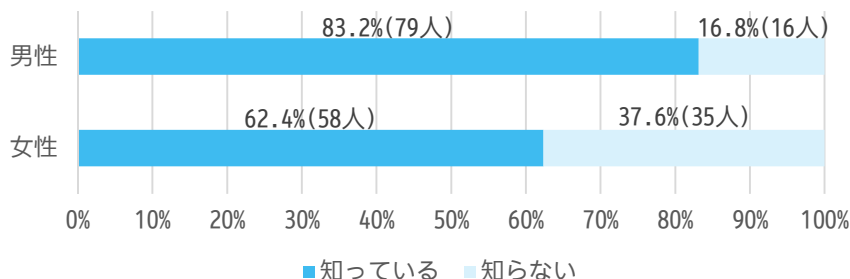
※3人無回答



### 年代別



### 男女別



全体の72.9%が土砂災害ハザードマップの改訂について「知っている」と回答している。年代別では、50代から70代において8割以上が「知っている」と回答している。また、20代から40代でも約6割の認知度であった。男女別では、男性は83.2%、女性は62.4%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が20.8ポイント高い。

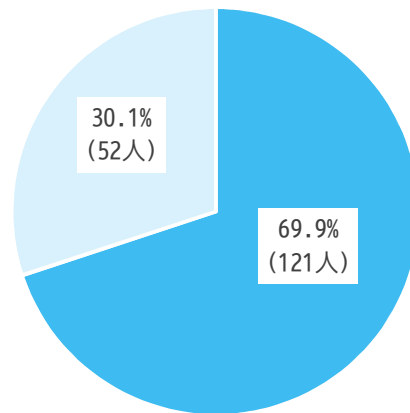
問9 問7で「知っている」を選択した方にお尋ねします。土砂災害ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：173人）

土砂災害ハザードマップURL [https://www.city.koriyama.lg.jp/bosai\\_bohan\\_safecommunity/bosai/7/10329.html](https://www.city.koriyama.lg.jp/bosai_bohan_safecommunity/bosai/7/10329.html)

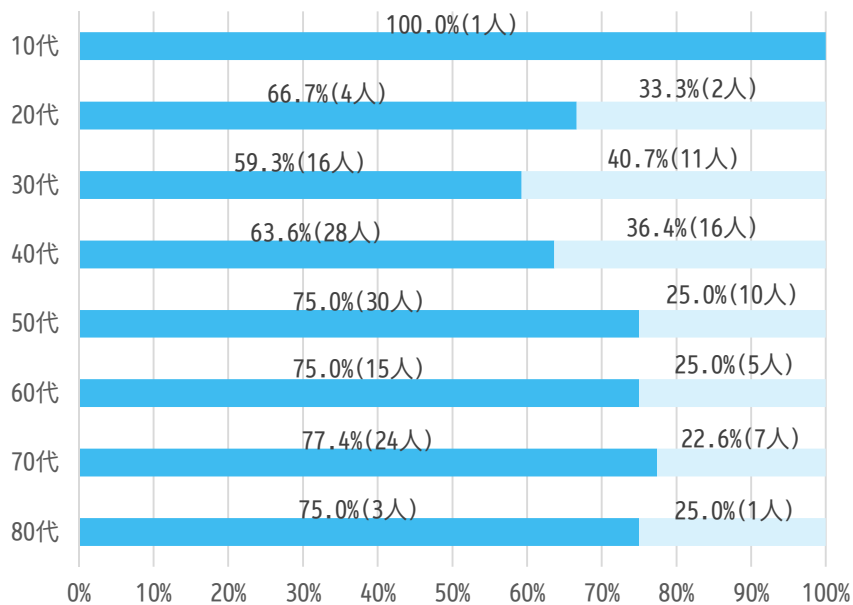


※18人無回答



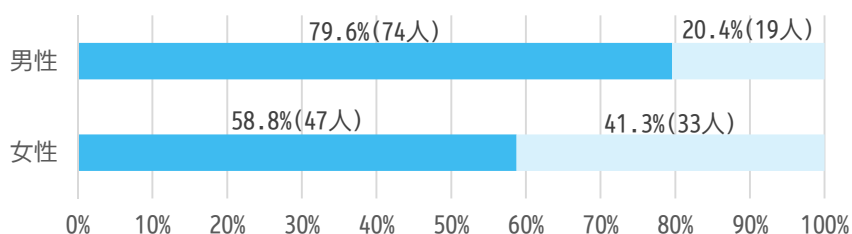
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

男女別



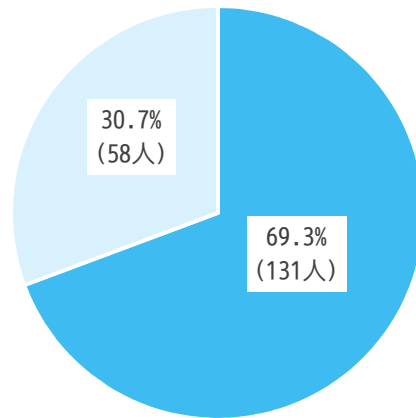
■ 知っている □ 知らない

土砂災害ハザードマップのダウンロードについて、69.9%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても半数以上が「知っている」と回答している。また、男女別では、男性は79.6%、女性は58.8%となっており、女性よりも男性の方が20.8ポイント高い。

問10 土砂災害ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の土砂災害リスクについて事前に確認していますか？

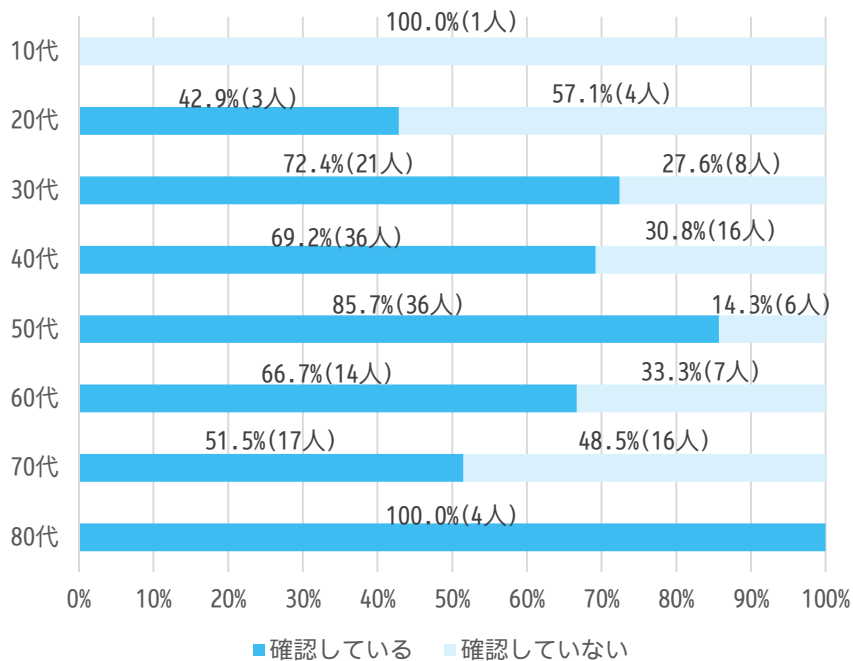
(回答者：189人)

※2人無回答



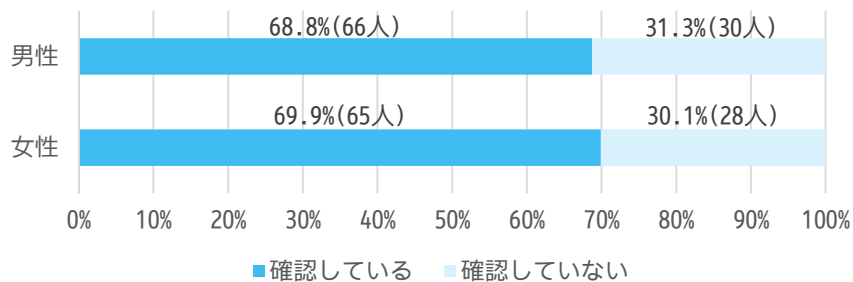
■ 確認している □ 確認していない

年代別



■ 確認している □ 確認していない

男女別



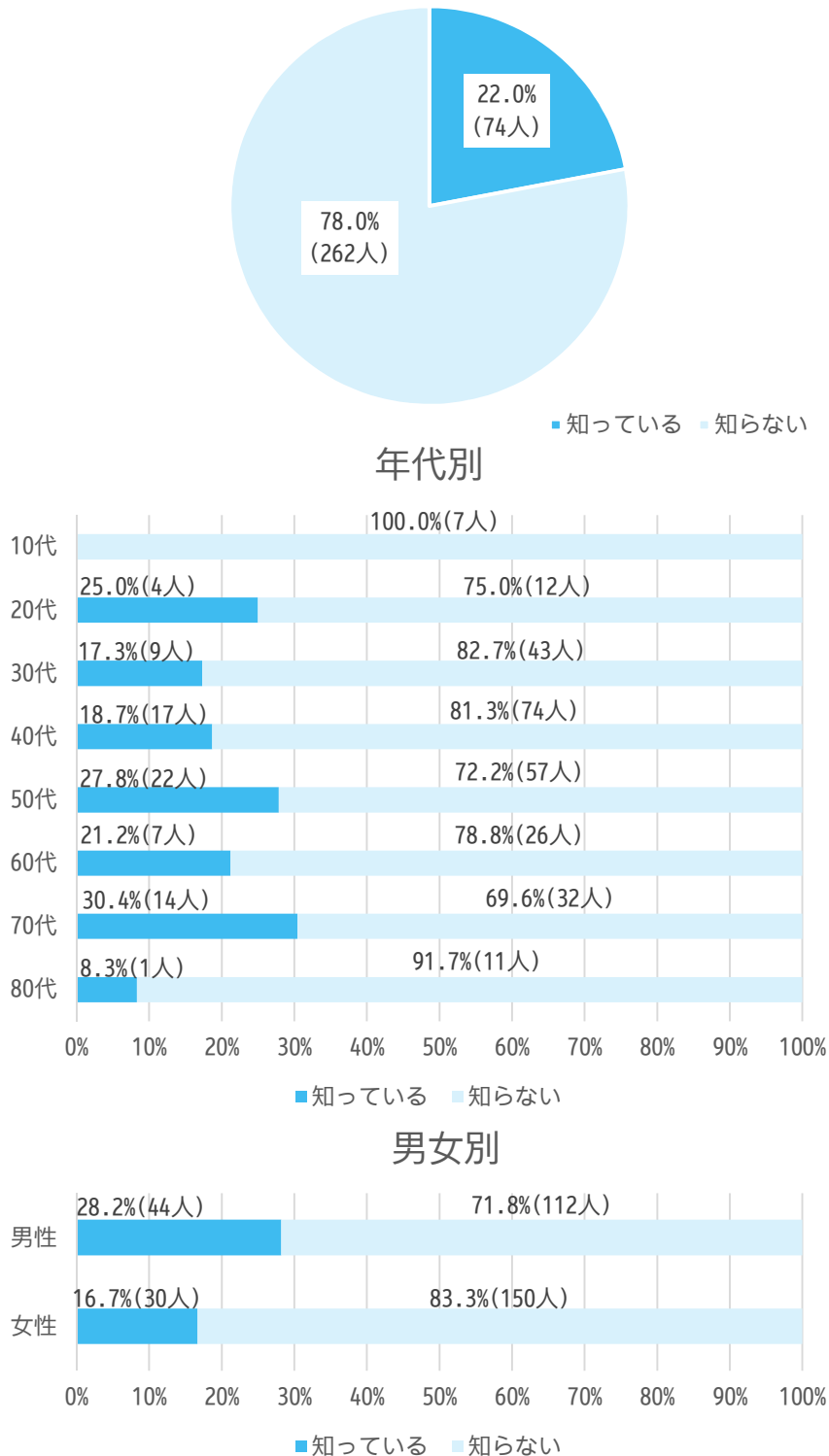
■ 確認している □ 確認していない

問7で「知っている」と回答した方の中、69.3%が土砂災害リスクについて事前に「確認している」と回答している。年代別では、80代が100.0%、次いで50代が85.7%と割合が高い。男女別では、男性は68.8%、女性は69.9%であり、ともに約7割が「確認している」と回答している。

### 第3章 液状化ハザードマップについて

問11 郡山市液状化ハザードマップ（以下、液状化ハザードマップ）をご存知ですか？  
（1つ選択）

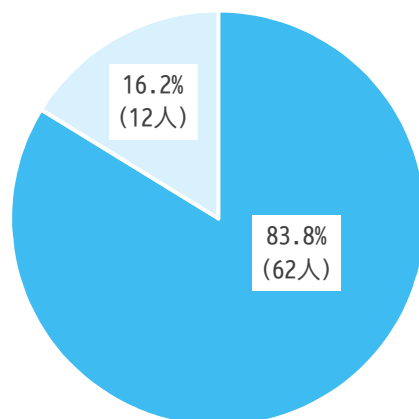
（回答者：336人）



全体の22.0%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」と回答したのは3割以下で、全体的に認知度が低い。男女別では、男性は28.2%、女性は16.7%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が11.5ポイント高い。

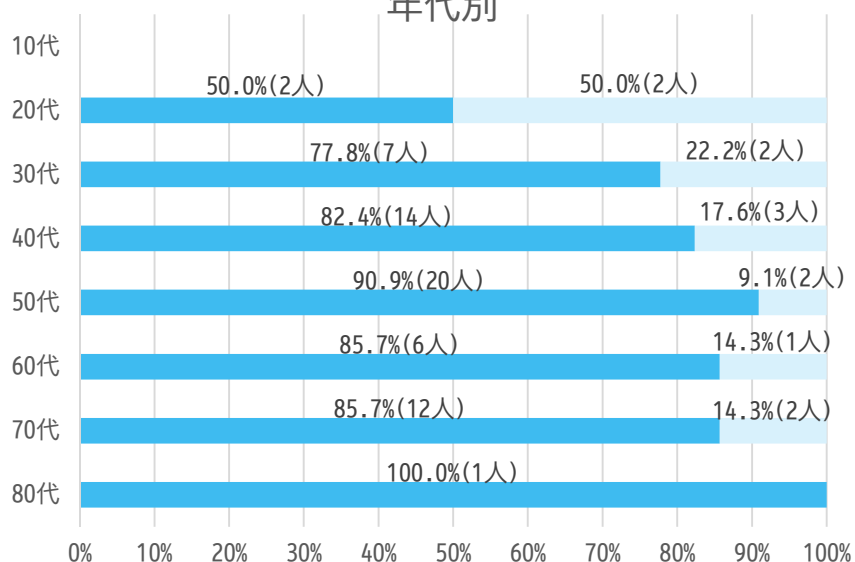
問12 問11で「知っている」を選択した方にお尋ねします。本市は、液状化ハザードマップを令和3年3月に新たに作成し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：74人）



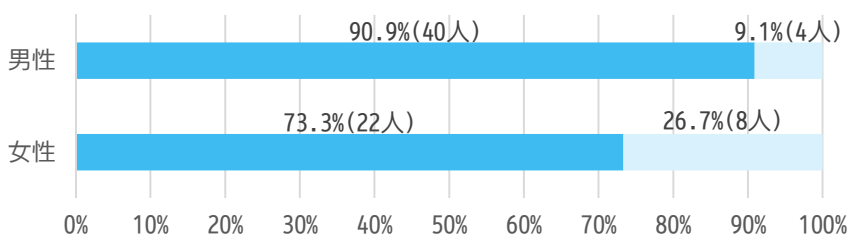
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

男女別

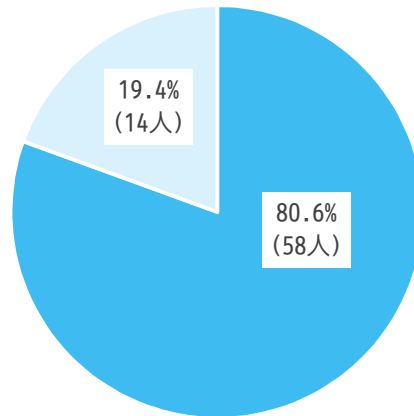


■ 知っている ■ 知らない

全体の83.8%が「知っている」と回答している。年代別では、30代以降の世代で高い割合を示しており、液状化ハザードマップを知っている人のほとんどが、令和3年3月に新たに作成されたことを知っていた。男女別では、男性は90.9%、女性は73.3%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が17.6ポイント高い。

問13 問11で「知っている」を選択した方にお尋ねします。液化化ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択） （回答者：72人）

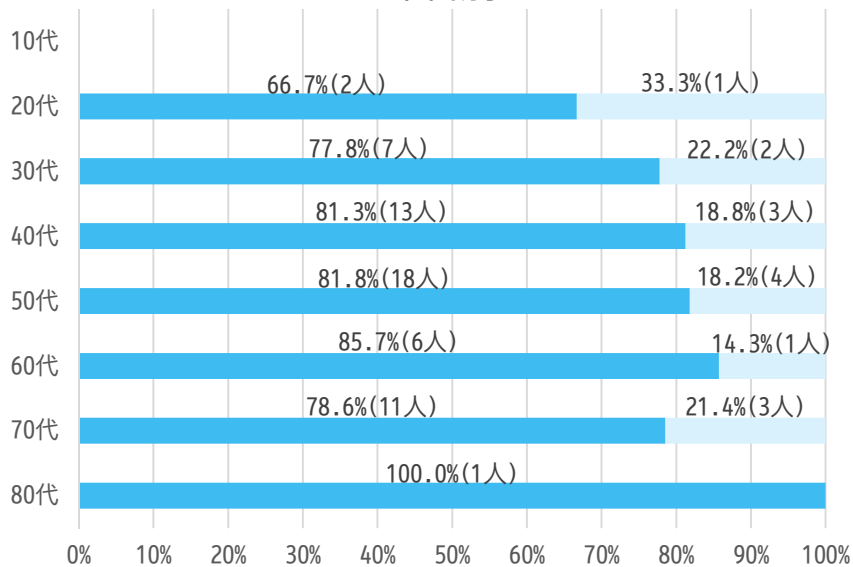
液化化ハザードマップURL [https://www.city.koriyama.lg.jp/bosai\\_bohan\\_safecommunity/bosai/7/27175.html](https://www.city.koriyama.lg.jp/bosai_bohan_safecommunity/bosai/7/27175.html)



※2人無回答

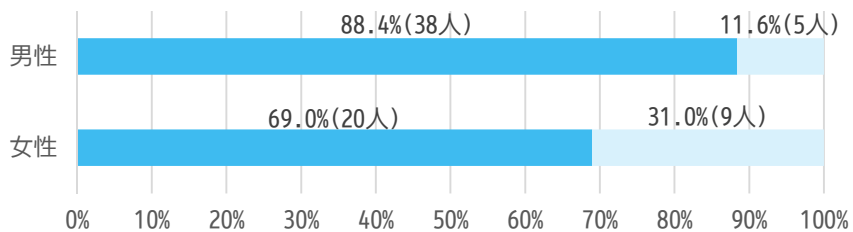
■ 知っている ■ 知らない

年代別



■ 知っている ■ 知らない

男女別



■ 知っている ■ 知らない

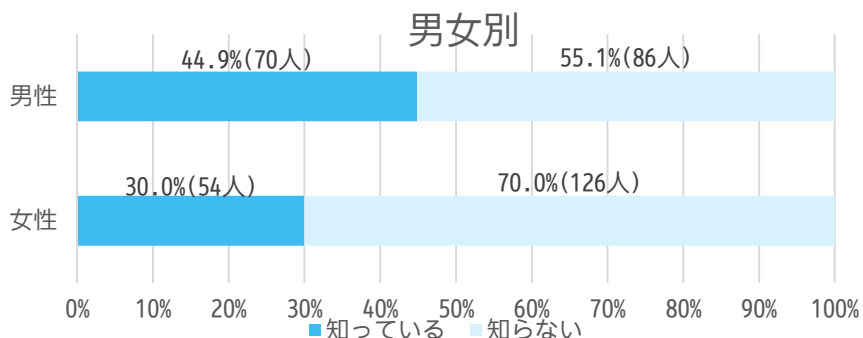
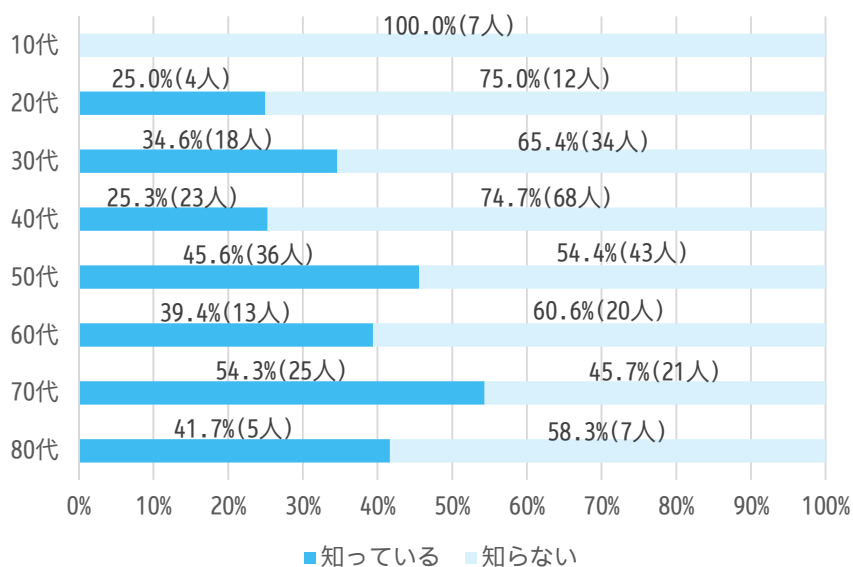
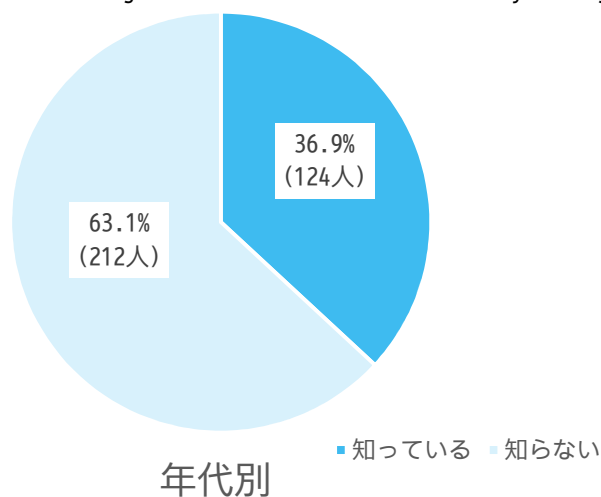
液化化ハザードマップのダウンロードについて、80.6%が「知っている」と回答している。年代別では、10代を除く各年代において6割以上が「知っている」と回答している。また、男女別では、男性は88.4%、女性は69.0%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が19.4ポイント高い。

## 第5章 郡山市地理情報システムについて

### 問 14 インターネットで洪水浸水想定区域や浸水深、土砂災害（特別）警戒区域を見ることができるサービス「郡山市地理情報システム」ご存知ですか？（1つ選択）（回答者：336人）

郡山市地理情報システムURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshikinogoannai/seisakukaihatsubu/dxsenryakuka/gomu/3/1/4618.html>

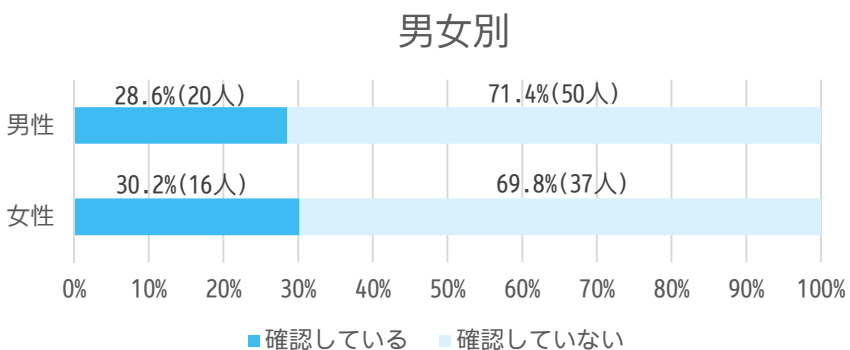
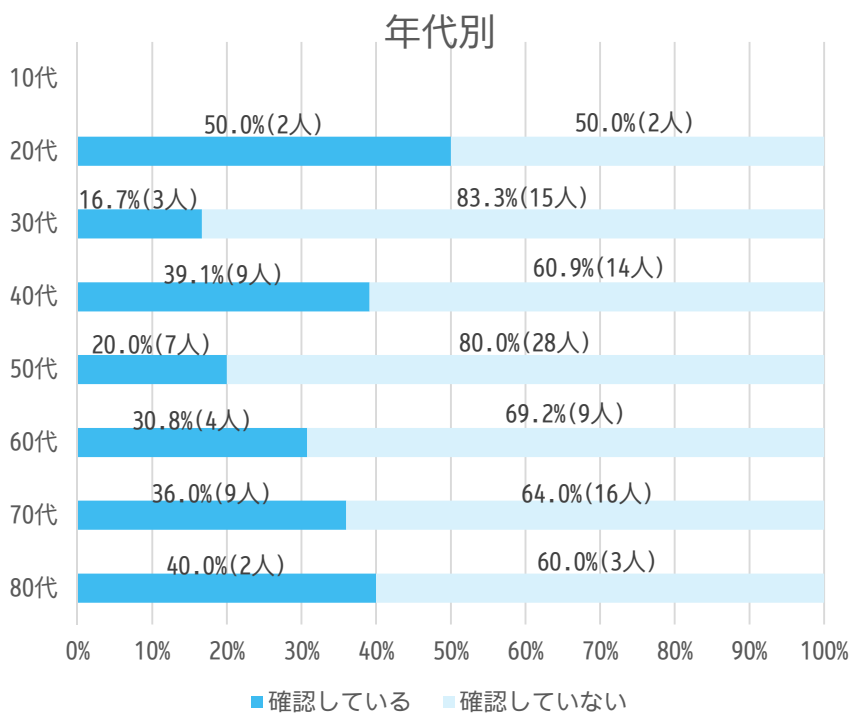
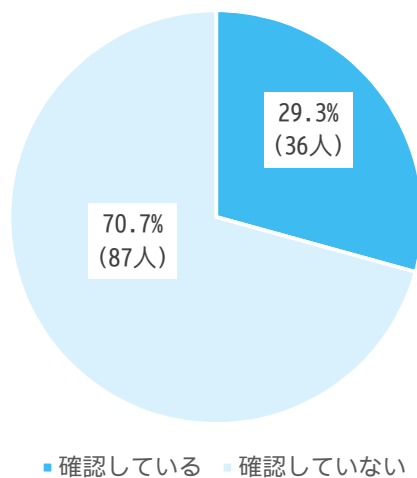


全体の36.9%が「知っている」と回答している年代別では、10代では認知度は0%であり、その他の年代においても半数以下の割合を示していることから、「郡山市地理情報システム」の認知度は低い。男女別では、男性は44.9%、女性は30.0%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が14.9ポイント高い。



問 15 問14で「知っている」を選択した方にお伺いします。郡山市地理情報システムを使って自宅や学校、職場等の水害リスク、土砂災害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）  
（回答者：123人）

※1人無回答



全体の29.3%が「確認している」と回答している。どの年代も半数以下であり、郡山市地理情報システムを用いてリスクの確認を行っている人の割合は全体的に低い。男女別では、男性は28.6%、女性は30.2%であり、ともに約3割が「確認している」と回答している。

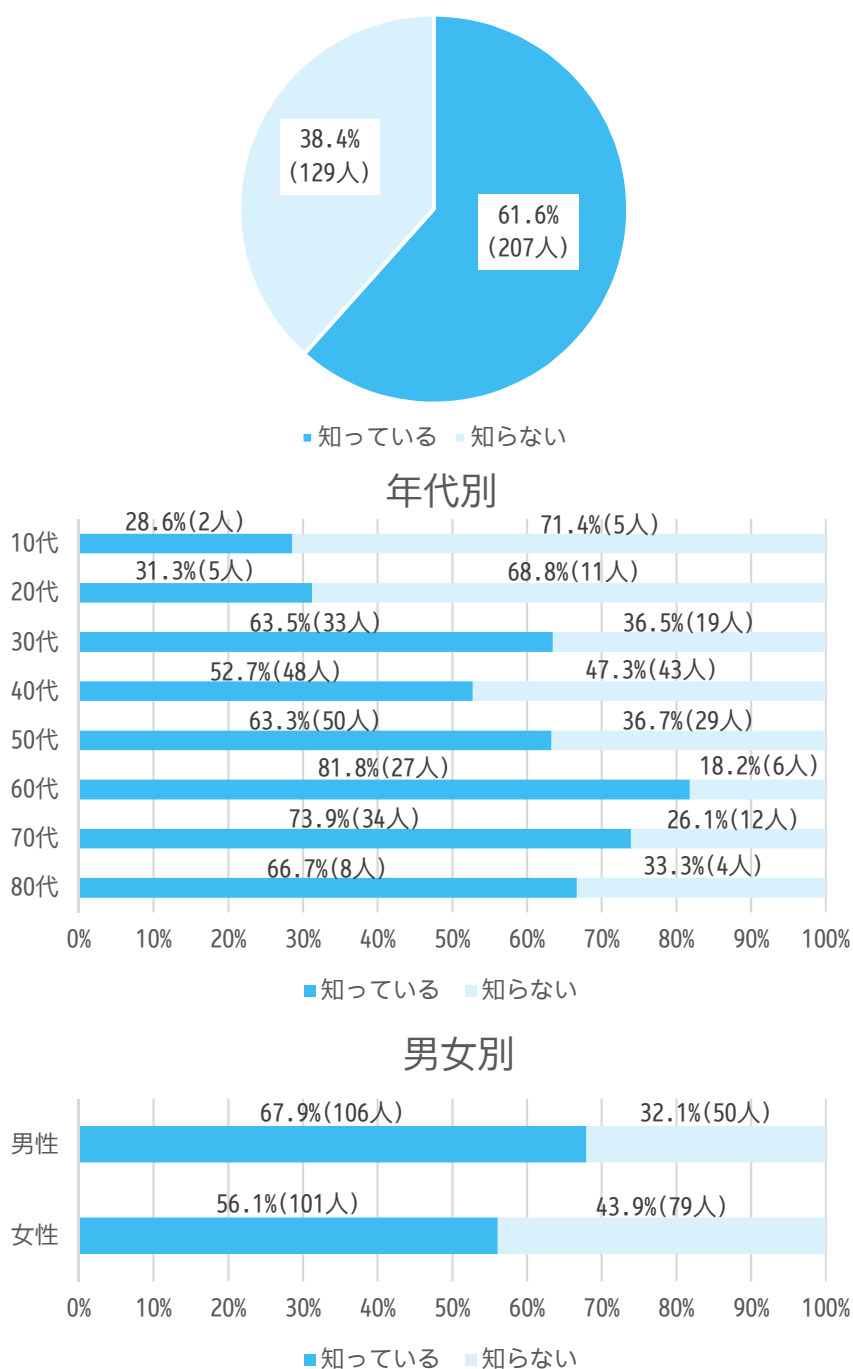
## 第6章 その他

問 16 コロナ禍における3密（密閉・密集・密接）を防ぐため、親戚・友人などの家への避難、車中避難（※1）、自宅での垂直避難（※2）、旅館・ホテルへの避難など避難所以外に避難する「分散避難」についてご存知ですか？

（※1）自家用車で浸水する可能性がない高台や駐車場等に避難すること。

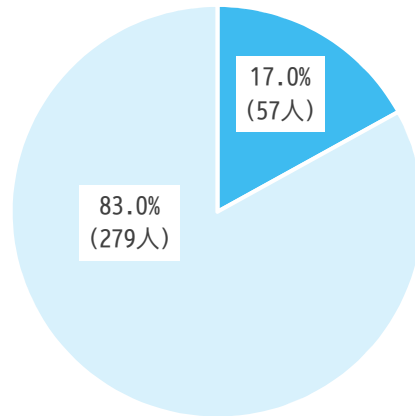
（※2）自宅・施設等の浸水しない上階へ移動すること。

（回答者：336人）



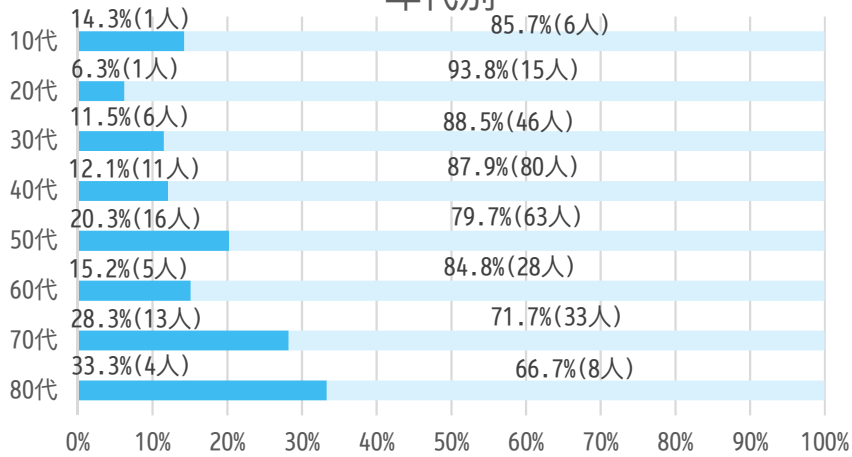
全体の61.6%が「知っている」と回答している。年代別では、10代が28.6%と最も低く、次いで20代が31.3%であり、若い年代では、「分散避難」があまり知られていない。男女別では、男性は67.9%、女性は56.1%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が11.8ポイント高い。

問 17 本市では垂直避難に特化した避難所として、「日大工学部・70号館」及び「帝京安積高校・アリーナ」が指定されていることをご存知ですか。 (回答者：336人)



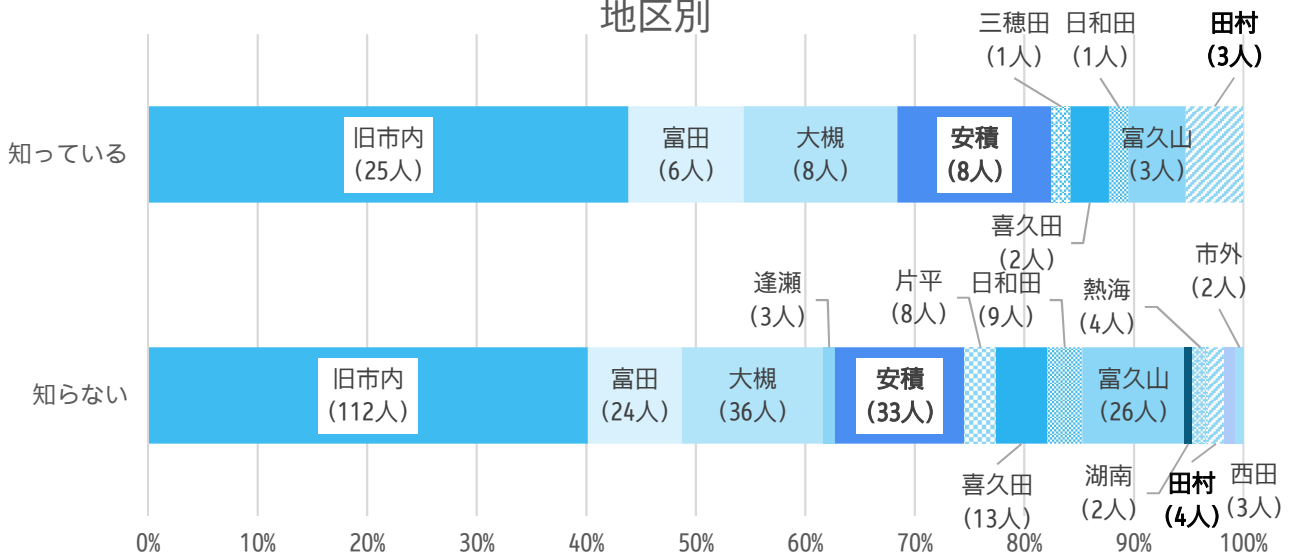
■ 知っている ■ 知らない

### 年代別



■ 知っている ■ 知らない

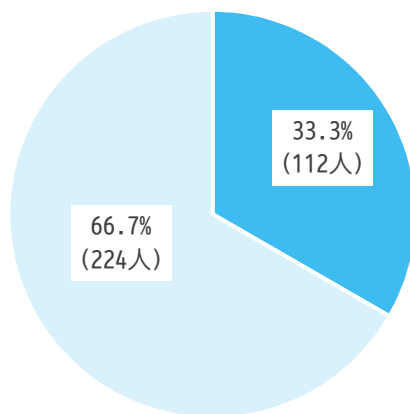
### 地区別



全体の17.0%が「知っている」と回答している。年代別では、最も高くても80代の33.3%であり、垂直避難の避難所の認知度は低い。また、当該避難所が設置されている地区において、安積地区では41人中8人、田村地区では7人中3人が「知っている」と回答し、地元における認知度は半数以下である。

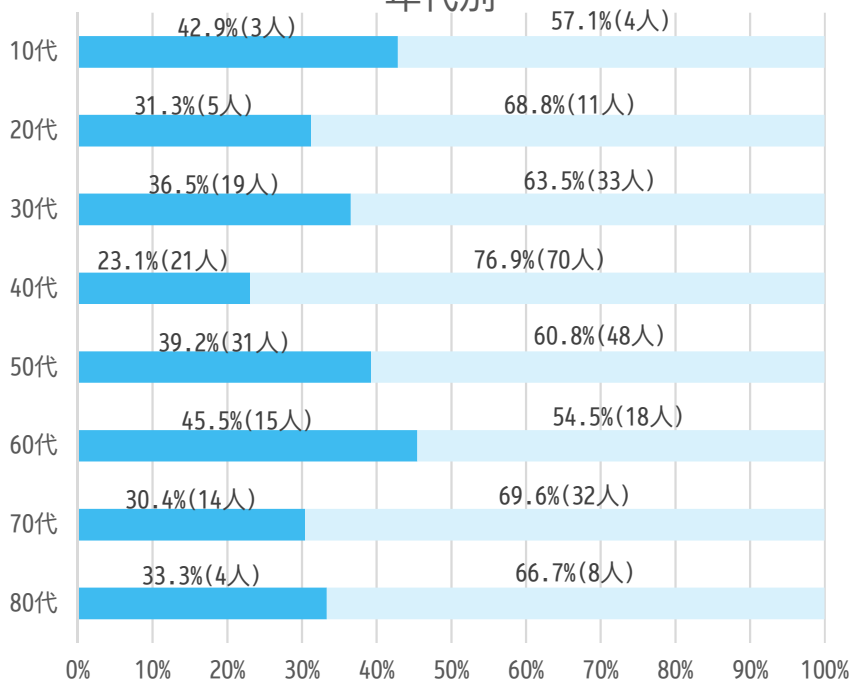
問18 本市では車中避難場所として、公共施設や公園、民間等の駐車場を指定していることをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：336人）



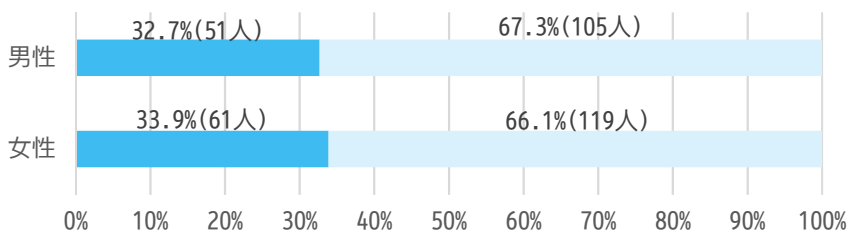
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

男女別

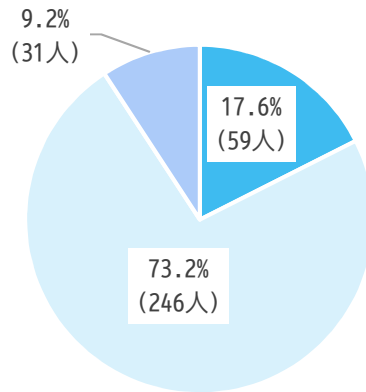


■ 知っている □ 知らない

全体の33.3%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても半数以下となっており、本市で指定している車中避難場所の認知度は低い。男女別では、男性は32.7%、女性は33.9%であり、ともに約3割が「知っている」と回答している。

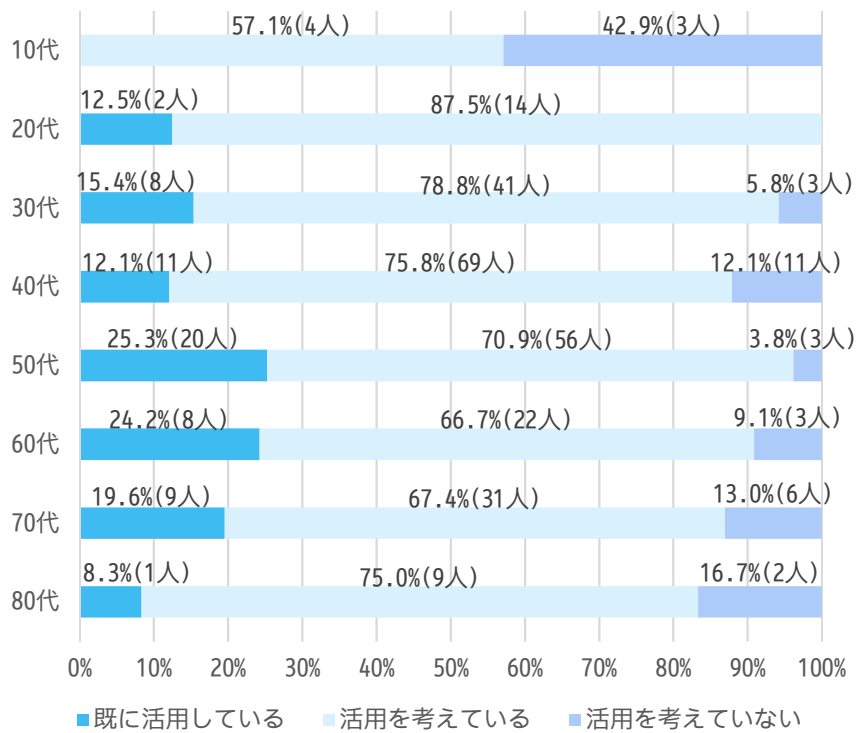
問19 今回のアンケートを機に各種ハザードマップ（洪水、土砂災害、液状化）を活用しようと思いますか？（1つ選択）

（回答者：336人）



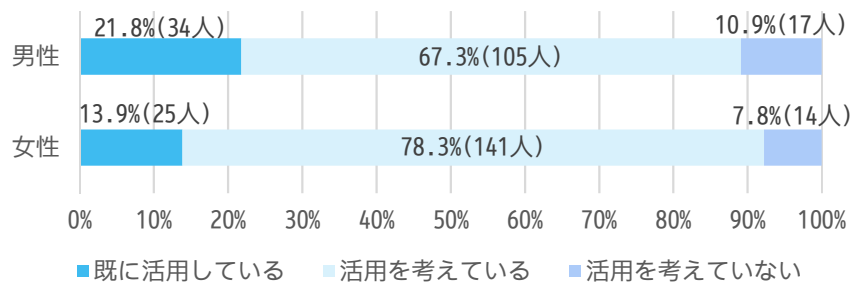
■既に活用している ■活用を考えている ■活用を考えていない

年代別



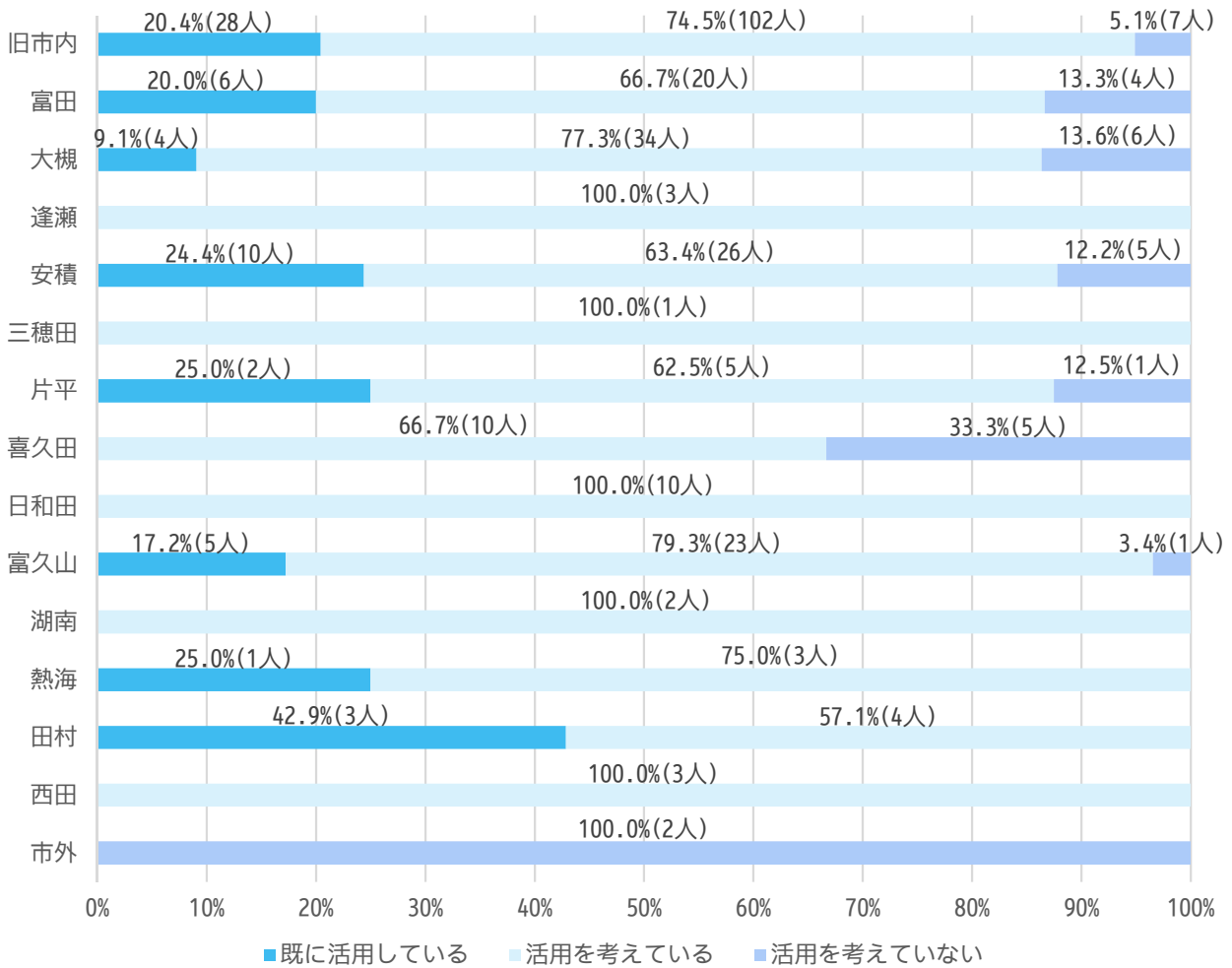
■既に活用している ■活用を考えている ■活用を考えていない

性別



■既に活用している ■活用を考えている ■活用を考えていない

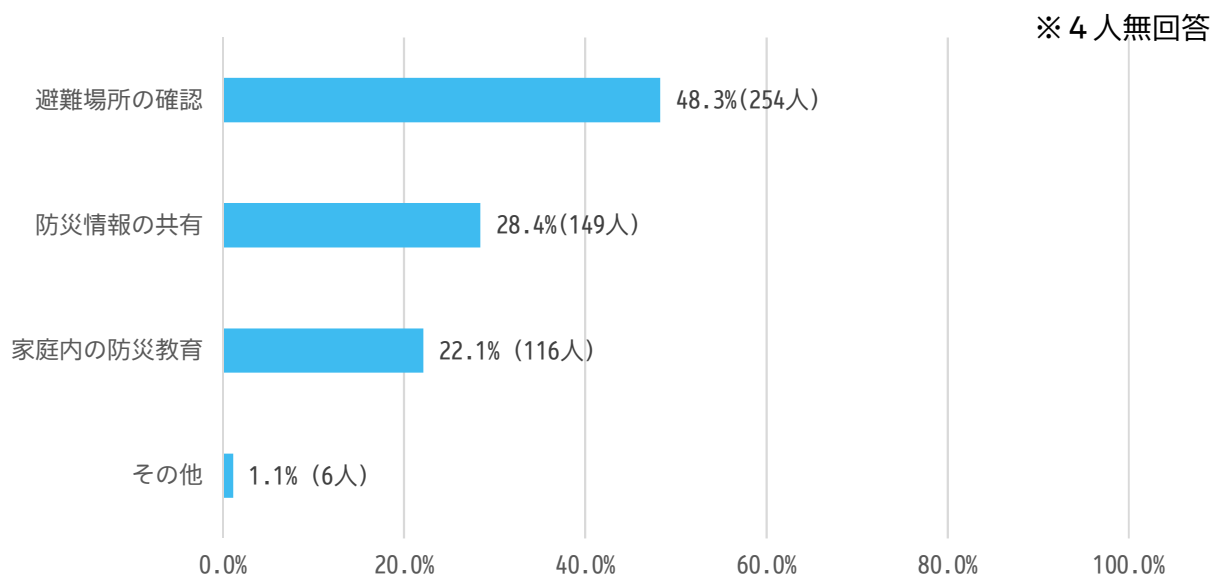
## 地区別



全体の17.6%が「既に活用している」、73.2%が「活用を考えている」と回答している。年代別では、20代から80代において8割以上が「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答している。男女別では、男女ともに約9割が「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答している。地区別でもほとんどの地区で「既に活用している」、「活用を考えている」の割合が高く、大多数の方がハザードマップを活用しようとする考えである。

問20 問19で「既に活用している」や「活用を考えている」を選択した方にお尋ねします。どういった活用を実行していたり、考えていますか？  
(複数選択可)

(回答者：305人)



■「その他」を選択した方の主な意見

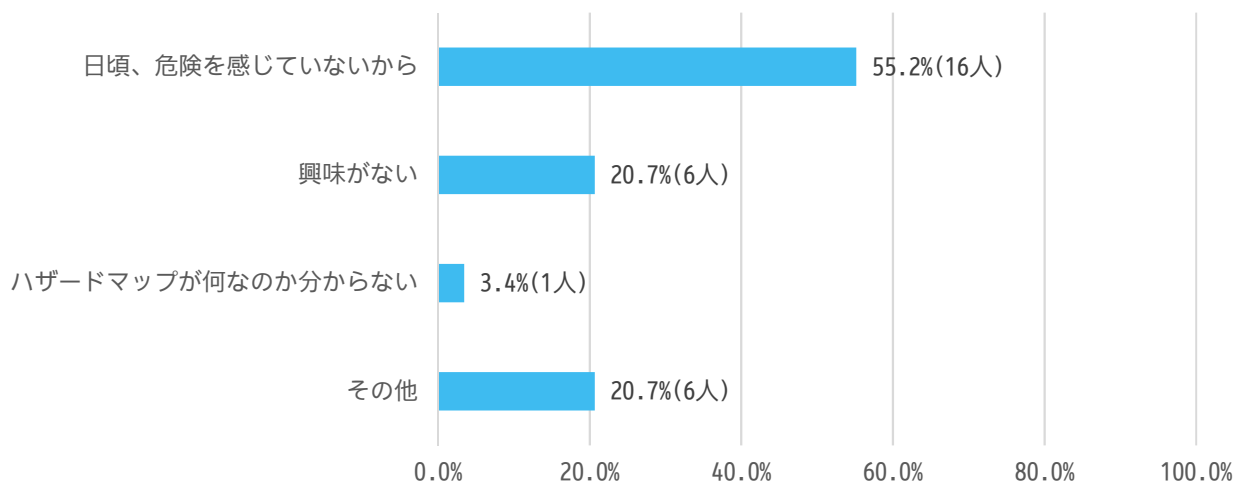
- ・ハザードマップを参考に引っ越し先を決めた
- ・地域の自主防災会での活用
- ・外国出身住民のための防災教室

「既に活用している」もしくは「活用を考えている」方の活用方法として最も多かったのが、「避難場所の確認」で48.3%であった。次いで、「防災情報の共有」、「家庭内の防災教育」がそれぞれ28.4%、22.1%であり、多くの方が避難場所を確認するためにハザードマップを活用している。

問21 問19で「活用を考えていない」を選択した方にお尋ねします。それはなぜですか？  
(複数選択可)

(回答者：31人)

※2人無回答



■「その他」を選択した方の主な意見

- ・自宅の土地が高いので水害はないから
- ・各種ハザードマップに該当しないから
- ・ハザードマップを見ても意味がないから

「活用を考えていない」と回答している理由として、「日頃、危機を感じていないから」が55.2%と最も多く、次いで「興味がない」が20.7%であった。ハザードマップを活用するには本人が災害に対して危機感を感じているかどうか大きな要因となっている。



問22 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

ハザードマップの活用について

・知ってはいるがマップを活用していないのでこれを機会に家族で話し合ってみたい。  
(70代・男性)

・職場が水害に遭ったことがあるので、洪水ハザードマップのことは知っていたが、その他のものについては知らなかった。災害はいつ起こるか分からないので、これを機に活用していきたい。(40代・女性)

・恥ずかしながら今回自分が有事の際の事に関して何も知らなかったのを知りました。改めて郡山市のサイト等を確認して今後活かしたいと思いました。(40代・男性)

・仕事場が令和元年の台風で水災害にあったから、ハザードマップを確認するようになりました。小学生の子供も「ハザードマップの見方を学校で勉強したよ!」と教えてくれました。家の近くの避難場所がどこなのか、小学校で勉強することで家族でも災害時の行動を話し合い確認することができました。(30代・女性)

・実際に本市でも水害の被害があったので、より身に迫った危険が存在しているのだなと改めて思い知りました。各種ハザードマップを活用して万が一に備えたいと思います。  
(40代・男性)

・今回のアンケートで知らないことが多々あることがわかりました。これを機に情報の入手方法や利用方法を見直したいと思います。(70代・男性)

周知について

・ハザードマップは重要な情報ですので、更なる周知徹底を行っていただければと思います。(70代・男性)

・テレビ番組で、マップの活用の仕方を紹介したり、一昨年の台風被害からの現状などを見せてほしい。テレビでなければ、ビデオを作って貸し出ししてほしい。(40代・女性)

・最近では周知の方法がネットに頼りがちだが 情報に対しても弱者がいることを忘れてはいけないと思う。(50代・男性)

・ハザードマップの見方、活用方法などの解説動画がアップされたら是非見てみたい。文字だらけの情報は多すぎて、ガラガラ理解になってしまうので、ポイントを押さえた説明動画を希望する。(60代・女性)

ウェブサイトについて

・以前、郡山市水害の際に、郡山市ウェブサイトのハザードマップを確認しようとしたが、サーバーがパンク状態で繋がらず。必要の際に確認できないのは致命的でした。災害が発生しそうな状況ではアクセスが集中すると思いますので、その強化が必要と感じました。(40代・男性)

・お年寄りから子供まで簡単に分かるような目で見えすぐクリックして目的まですぐに辿り着けるサイトになるといいなと思う。防災もその観点から行くと緊急事でも見にくくて、活用するには難しい。日頃から見ているのは誌面の方です。(40代・女性)

## 防災関係について

・私は、防災に関して強く関心を持っています。地震、火災、洪水、コロナまで幅広く、情報を得ようと取り組んでいます。今後も、郡山市の防災情報や防災対策など、発信していただければとても助かります。現在は行ってはませんが、今後知人や家族など、情報を共有して災害時にはスムーズに行動できるよう促していきたいと思っています。(20代・男性)

・想定外の異常気象が当たり前になる世界になりつつあると思います。自然を相手に人間は無力です。が減災は可能だと思います。早めの避難指示と正確で迅速な伝達システムの構築が急務だと思います。また、浄水場跡地も含め長年無駄になっている土地や建物をまだまだ活用できるのではないのでしょうか？災害は待ってくれません。スピーディーな減災システムの構築を望みます。(30代・男性)

・恥ずかしいくらい知らない事が多かったです。災害が起きた時は気を付けようと思っていますが時間が経つと何の準備もしていません。もう少し、関心を持って行動していきたいと思っています。(40代・女性)

## 避難所について

・猫がいるので避難所に入ることはできないと思う。ペットがいる家庭用に避難所を考えてほしい。(40代・女性)

・個々の避難所の設備、備蓄品、環境などの情報が分からないので準備も出来ないし避難することが不安です。(70代・男性)

## その他

・沿岸部の津波被害地域の場合、この高さまで海水がきたという表示が道路脇にあります。温暖化で洪水が多発することが予想されているのであれば、そういう設置もこれからは必要なのではないのでしょうか。(50代・男性)

・全国的に雨による災害が今回もあり、私達も他人事ではなく注意しなければならないと思います。(40代・女性)

・ハザードマップが作成され配布・公開されている事は承知しています。ただ、自宅にある紙版は折りたたんで収納する為、一度見ても忘れてしまう、ネット版は辿り着くのが大変で細かい為見づらくなかなか見ません。経験的には、出かけた先で壁に貼ってあると何気なく見ます。市役所や行政センター、公民館等に掲示してあると何かの用事で行った時に、見ると思います。(40代・男性)